

平成29（2017）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育A	科目ナンバリング	C3011SG G001
担当者氏名	崎元 りずみ		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育現場で音楽活動を行うにあたっては、まず、楽譜に書かれている内容が理解できることが必須です。本授業では音楽の基礎である音楽理論を学びます。

《テキスト》

『やさしい楽典』（ドレミ楽譜出版社）

《参考図書》

その他、資料などは必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 音楽理論を理解し、楽譜を理解して演奏できるようになる。
- コードネームを見て伴奏づけができる。
- 律動や保育現場での音楽活動に必要なリズムが理解できる。
- 子どもの声の高さに合わせて移調ができる。
- 初見で歌ったり、演奏したりできる。

《授業時間外学習》

【復習】毎回の授業が理解できないと次の授業で更に理解できなくなります。必ず前回の授業内容を復習し理解したうえで毎回の授業を受けること。

《成績評価の方法》

平常点30% (授業中に指示する課題)
 筆記試験70%
 試験後解説を行い、達成度を確認する。

《備考》

1. 保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。2. 悪い受講態度(スマホ使用、無駄話、重度な居眠りなど)は評価に反映します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	楽譜の基礎	五線、音部記号、音名(イタリア語、日本語、英語)、音高、# b ♯、異名同音 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
2	拍子①、音の長さ①	拍子、4分の4拍子、4分の3拍子、4分の2拍子、小節、反復記号、3連符、リズム打ち、弱起の曲、タイとスラー、シンコペーション
3	拍子②、音の長さ②	拍子、8分の6拍子、8分の3拍子、付点音符、リズム打ち、リズム総復習 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
4	音階、ハ長調、記号	音階、ハ長調の簡単なメロディーの初見奏、強弱記号、奏法記号 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
5	主要三和音とコードネーム (ハ長調①)	I、IV、V、V7とC、F、G、G7の理解、和音の基本形と転回形、カデンツ(和声)
6	主要三和音とコードネーム (ハ長調②)	ハ長調の初見奏(和音あり、両手)、コードネーム付きメロディー譜で伴奏付け ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
7	主要三和音とコードネーム (ヘ長調)	ヘ長調の音階、I、IV、V、V7とF、B♭、C、C7の理解、ヘ長調の初見奏
8	主要三和音とコードネーム (ト長調)	ト長調の音階、I、IV、V、V7とG、C、D、D7の理解、ト長調の初見奏 ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
9	三和音の種類、その他のコードネーム	長三和音、短三和音、増三和音、減三和音とコードネーム、2度、3度の音程の理解
10	イ短調	イ短調の自然短音階、和声短音階、旋律短音階、イ短調の主要三和音とコードネーム ★課題の指示(理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います)
11	調について	調号の理解、#系の調、b系の調
12	移調	調の理解と確認、移調の方法、移調奏
13	復習①、伴奏法	音、拍子、リズムの復習、主要三和音、コードネームの復習
14	まとめ	理解の確認
15	復習②、理解度の定着	調、主要三和音、分散和音などの伴奏法

《学科教育科目》

科目名	器楽A	科目ナンバリング	C3012S◆●005
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、井上 綾乃、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせで行い、保育現場における音楽活動の基礎技能を身に付けます。個人レッスンでは、ピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。一方、集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）、『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）その他、進度に応じた教材を担当教員が指示します。

《参考図書》

『ブルグミュラー 25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- バイエル70番以上の曲を弾くことができる。
- 基礎的な歌唱技能を身に付けて、弾き歌いをするができる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多くつくる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき、点数化します。器楽Aはグレード2に合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途実施されるグレード試験も必要に応じて任意で受けること。結果にコメントを付して返却します。

《備考》

15回の授業のうち1回を学生コンサートの出席で振り替える場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】 個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】 弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 I A	科目ナンバリング	C3012S-●013
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

子どもの保健 I Aを学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 I—心身の発達・健康と安全—』
山崎知克 編著（建帛社）2013年11月25日

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

1. 胎生（胎児）から青年期に至るまでの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心身の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
【ten! 『めばえ』よみうりテレビ 月曜日～金曜日18:52～18:57】乳幼児の特徴や親の子どもに対する想い・関わり方を感じ取り、講義中にイメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

・学期末テスト（100%）

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	VTR視聴にて出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することができ、説明することができる。（VTR視聴予定）
5	新生児の成長発達①	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達②	新生児期の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。（VTR視聴予定）
7	乳児の成長発達①	乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な体の発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達②	乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な心の発達を理解することができる。
9	幼児の成長発達①	幼児が健全に成長できるように幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達②	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントが解り、理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解る。
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に関係するワクチンの特徴・ワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	乳幼児を取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C3031SG G019
担当者氏名	古川 督		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

『社会福祉の基本体系（第5版）』勁草書房
法制度の変更があるため、第5版を購入すること。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
 - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（20%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（60%）により評価する。
筆記試験の後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	保育原理A	科目ナンバリング	C3011SG G023
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

- 保育実践に必要な基礎的知識を習得する。
- 自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
- 多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意味	保育とは何か
2	保育の意味を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭－保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育・教育施設－子ども・子育て支援新制度
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針－保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした 保育制度の未来
15	まとめ	子どもへの想いを確認 基礎的知識の確認

《テキスト》

『新・保育原理(第3版)ーすばらしき保育の世界ー(みらい2016)』『最新保育資料集2017』森上史朗編(ミネルヴァ書房 2017)『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館 2008)

《参考図書》

『フレーベルの生涯と思想』 荘司雅子著(玉川大学出版部1984), 『子どもの世界をどうみるか』 津守真著(NHKブックス1987), 『センスオブワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳(新潮社 1996), 『クリエイティブ進化論』道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999), 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008), 『教育・保育要領解説』(2015) またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来得る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと(子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使した保育教材の探求等)。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもの観察する機会を多く持ってほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《学科教育科目》

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	C3012S-●025
担当者氏名	古川 督		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会的養護に関する基礎的な知識と歴史および今日的課題を理解する。現代の日本の家庭と子どもについて学び、子どもの権利を知る。また、社会的養護の制度や体系を知り、特に施設養護の実際と援助方法を学ぶ。

《テキスト》

『保育実践と社会的養護』勁草書房

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

保育士として必要な社会的養護に関する基礎的な知識と技術を獲得し、社会的養護の歴史および今日の社会的養護の課題を理解できること。

《授業時間外学習》

社会的養護の今日的課題を理解するため、日々の新聞やニュース等からも積極的に情報を得ること

《成績評価の方法》

平常点（20%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（60%）により評価する。
筆記試験の後に解説を行う。

《備考》

教科書は授業、試験ともに使用しますので、必ず購入すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の今日的課題	社会的養護が求められる社会背景について
2	社会的養護の基本原則	社会的養護における援助の原則について
3	社会的養護政策の特徴	施設養護から在宅福祉への変遷について
4	日本における子どもと家族	子育て家庭の現状や地域社会とのつながりについて
5	社会的養護の歴史①	第二次世界大戦後の子どもの養護について
6	社会的養護の歴史②	高度経済成長期以降の子どもの養護について
7	社会的養護の体系①	里親やファミリーホームなどの家庭養護について
8	社会的養護の体系②	施設や小規模グループケアなど施設養護について
9	社会的養護の体系③	在宅福祉サービスなど在宅養護について
10	社会的養護の制度	市町村や児童相談所などの社会的養護の相談機関について
11	施設養護①	乳児院、児童養護施設について
12	施設養護②	情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設などについて
13	施設養護の特質	施設養護の役割と集団での生活、保育士の役割について
14	施設養護の援助	治療的援助の方法やファミリーソーシャルワークについて
15	まとめと試験	これまでの学びの振り返りと、まとめの試験

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を学ぶ。見学観察実習の事前授業で、幼児の年齢による成長発達過程を理解し、遊びの内容を知り、幼児の姿をどう捉え、教師がどのようにかわるかを学ぶ。子どもを見る視点、保育を見る視点を知る。見学観察実習では現場を知り、幼児教育について理論と実践を繋げ、自分が身につけるべき知識技能を知る。記録、指導計画を書く力を付け、常に課題を持ち、参加指導実習に向け保育力をつける。

《授業の到達目標》

年齢による、身体と精神の成長発達を理解する。幼稚園での四季を通しての遊び、行事、触れ合い保育等様々な生活、遊びの内容を知り、その時々に応じた内容を考える。教師の一日の仕事、役割、援助の仕方から、幼稚園生活の流れを学ぶ。観察記録の書き方を知り、自らの課題を持つ。子どもの日々の姿から、環境構成の、子どもの活動、教師の援助を考え、指導計画作成に繋げる。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10% 授業中の発表内容、態度 20% 実習園の評価、実習ノート 70%
 ・分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付け、授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次期の目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	予備日	保育実習
2	予備日	保育実習
3	予備日	保育実習
4	予備日	保育実習
5	予備日	保育実習
6	予備日	保育実習
7	予備日	保育実習
8	予備日	保育実習
9	教育実習の考え方・心得 授業内容を知る。	教育実習について理解し、幼稚園教諭二種免許について知る。実習への心構えを学び、課題を持つ。幼児の前に立ち、話をする事を知り、常にその立場を考えておく。
10	教育実習の意義 見学観察実習について	幼稚園の現場への理解と見学観察実習の意味を知る。保育の教材の絵本等について理解し、読み聞かせ等をする。
11	幼稚園教育の基本 幼稚園教諭の仕事・役割	幼稚園教育要領の理解と幼児教育の基本を知る。幼稚園教諭の仕事、役割を幼児との生活を共に過ごす姿から理解する。 VTR視聴
12	幼稚園の生活を知る。 一日の流れと幼児の姿	幼児が1日の生活をどのようにしているか。1年間の生活、遊びを通し、どのような遊びがあるかを知る。3、4、5歳児の遊びを知り、心を動かす遊びを考える。
13	幼児の遊びと環境構成 幼児理解	幼児の遊びから、環境構成のあり方を知る。3、4、5歳児の成長発達の違いを知る。
14	保育を見る視点 観察実習への課題	見学観察実習で、幼稚園での保育の中で、何を観察し、どんなことを知り、どんなことを学びたいか明確に意識し、自分の課題を考える。
15	予備日	保育実習

《テキスト》

幼稚園教育要領解説、実習の手びき（授業で配布）
 必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

色々な教科の実践的な保育技術を身に付け、活かす。数多くの絵本、手遊び、子どもの好きな遊び、教材、遊び用具等を常に自分で調べ、考え、研究する。記録を書く、指導計画を書くことを意識する。子どもの楽しむことはどんなことか、保育のレパトリーをふやし、積極的に実践する。常に、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等準備し、持参する。

《備考》

実習を受ける資格条件を遵守。積極的、意欲的に授業に取組み遅刻早退欠席をしないようにする。提出物は必ず提出。授業妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。7週の授業計画。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011S◆-027
担当者氏名	小林 孝子、青木 好代		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

参加指導実習の目的、意義を理解する。課題を持って、参加指導実習をする。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。年齢別に子どもの成長発達を理解する。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しむ保育を考える。保育に参加するという目的を持ち意欲を持って臨む。知識、技能を活かし、参加指導実習で保育力を身につける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手びき』（授業で配布）
必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

年齢による、身体と精神の成長発達を理解する。
幼稚園の四季を通した生活、遊びを具体的に知る。
環境構成、幼児の活動、教師の援助等を学び、実習記録の書き方を学ぶ。
模擬保育を通して、子どもと楽しめる遊びを考え、実践力をつける。

《授業時間外学習》

図書館等で数多くの絵本、紙芝居に接し実践に活かす。保育雑誌などから保育の教材の研究をする。色々な教科で身に付いたことを実践に活かし、子どもが楽しむ事はどのようなことか常に考えておきましょう。身近に園児の遊ぶ姿から、四季の遊びを知り、自然物に興味を持つ。常にハサミ、のり、テープ、ホッチキス等準備をし、持参する。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10% 授業中の発表内容、態度 20%
実習園の評価・実習ノート 70%
・分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。提出物は必ず提出し、積極的に発表し意欲を持って授業に臨む。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。(8週の指導計画)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	予備日	保育実習
2	予備日	保育実習
3	予備日	保育実習
4	予備日	保育実習
5	予備日	保育実習
6	予備日	保育実習
7	予備日	保育実習
8	見学観察実習で学ぶ課題と観察の視点	見学観察実習で学びたいことを明確にする。 幼稚園の生活を知る。
9	参加指導実習園の把握	参加指導実習園を選択し、実習をさせていただく園を決める。 園を訪問する時のマナー、言葉使いを考える。
10	幼稚園の年間行事を知る。	1年間の幼稚園の生活を知り、行事について考え、そのあり方、工夫や方法を知る。 DVD視聴
11	観察記録の書き方を知る。	幼稚園教育過程から、年、期、月、週、日の指導計画を知る。それにより、日々の保育の内容、ねらいがあることを知る。
12	指導計画の書き方を知る。	幼稚園の周辺、園庭、保育室から環境構成と記録の書き方を学ぶ。 準備物、教材、遊具、用具、配置、数量等の環境構成を知る。
13	指導案の書き方を知る。	保育環境によってどのように幼児が活動し、どのように心身の発達や成長が有り、学びがあるか、幼児の姿の捉え方と、記録を書く事を学ぶ。 DVD視聴
14	指導案の書き方を知る。	幼児の姿、活動から、教師のかかわりや援助の仕方を学び教師の意図、思いを汲み取る事の重要性を学ぶ。観察記録にどのように表現して教師の援助を書くかを学ぶ。
15	幼児が楽しむ指導案を考える。	観察記録を書く事から、1つのクラス活動としての遊びの指導計画を書く。ねらい、内容、保育の展開を考え、自分の指導計画を作成し、説明をする。

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《保育所実習》	科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	1年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 		

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についても、より一層、理解を深める。

《テキスト》

特に決まったものはありません。実習中に自分で探すこと

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考書、配布物等自分で書き留めたノート、自分で調べたり、体験したことを参考にし、実習先の先生方にも紹介をしてもらう。

《授業の到達目標》

- ① 保育所の役割や機能について理解を深める。
- ② 計画に基づく指導実習等を通して子どもへの理解を深める。
- ③ 実施した保育や実習記録から省察や自己評価を的確に行う。
- ④ 子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。遊びのレパトリーを増やしておく。体調管理等実習に臨む気持ちを高める。実習ノーマルとは丁寧を書く。素直な態度で臨むこと。

《成績評価の方法》

実習園の評価に「保育実習指導 I」の受講状況を加味したもの（60%）、実習ノート（40%）。なお、保育実習 I は、保育所 2 週間の実習をクリアしないと単位認定されない。実習ノートから各学生の成果と課題を明確にする。

《備考》

実習期間中のアルバイトは禁止。欠席等は、実習園と大学に連絡をすること。保育内容については実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所（園）見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
3	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
4	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
5	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
6	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
7	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
8	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
9	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
10	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
11	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
12	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
13	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
14	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照
15	保育所（園）見学観察実習	詳細は実習要項参照

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I 《保育所実習》	科目ナンバリング	C3011S-●028
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力		

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についても、より一層、理解を深める。

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《授業の到達目標》

- ① 保育所の役割や機能について理解を深める。
- ② 計画に基づく指導実習等を通して子どもへの理解を深める。
- ③ 実施した保育や実習記録から省察や自己評価を的確に行う。
- ④ 子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《参考図書》

『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイドー知りたいときにすぐわかる』同文書院
 『学びつづける保育者をめざす実習の本ー保育所・施設・幼稚園』萌文書林

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。遊びのレパトリーを増やしておく。体調管理等実習に臨む気持ちを高める。実習期間中のアルバイトは禁止。実習ノートは丁寧に書くこと。態度は素直が一番。

《成績評価の方法》

実習園の評価に「保育実習指導 I」の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)

なお、保育実習 I は保育所2週間の実習をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつける。欠席等は、実習園と大学に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所(園) 見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
3	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
4	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
5	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
6	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
7	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
8	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
9	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
10	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
11	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
12	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
13	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
14	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照
15	保育所(園) 見学観察実習	詳細は実習要項参照

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 			

《授業の概要》

「保育実習Ⅰ」（保育所見学観察実習 11月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、「保育実習Ⅰ」のための事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

[事前指導] 保育実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。

[事後指導] 実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《成績評価の方法》

この授業は、実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守る。最終的な成績は、施設実習に関する「保育実習指導Ⅰ」の評価を加え評価する。レポート等は、コメントを付けて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習とは	保育実習についての全体像を把握する。
2	保育所の概要	保育所の概要と実習の様子を視聴覚教材を通して学ぶ。
3	保育実習等希望受付け	保育所実習希望受付け。内諾について説明を聞き、各自が必要な書類等を作成する。
4	保育所の機能	保育所の施設設備、機能の概要について理解をし、地域での役割を学ぶ。
5	保育士の職務内容	保育士の職務内容・職業倫理について学び、保育士と子どもとのかかわり等についても理解をする。
6	保育所での乳幼児の姿	乳幼児の姿を視聴覚教材で学び、子どもの発達・生活・遊び等の理解に努める。
7	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）について学ぶことにより、子どもや他者との関係づくりに役立てる。
8	実習課題 実習記録①	実習課題の作成をする。 実習記録① 実習記録の意義について学ぶ。
9	実習課題 実習記録②	実習記録② 例題等を参考にしながら、実習記録が適切に書けるように努める。
10	教育実習指導	予備日とする。
11	教育実習指導	予備日とする。
12	教育実習指導	予備日とする。
13	教育実習指導	予備日とする。
14	教育実習指導	予備日とする。
15	教育実習指導	予備日とする。

《テキスト》

開 仁志著（2015）『実習日誌の書き方』一藝社

《参考図書》

久富陽子著（2002）『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』萌文書林

厚生労働所編（2015）『保育所保育指針解説書』

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の生活や・遊びに興味や関心を持つように心がける。自分の得意なことを見つけておく。実習で役に立つような絵本を図書館で探したり、おもちゃ等を調べて準備しておく。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡をすること。講義時は保育所の実習と考え、出席をすること（服装、態度）。講義中に行う実技演習は積極的に行うこと。

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ《保育所実習》		科目ナンバリング	C3011S-●029
担当者氏名	山村 けい子、古門 貞美			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 			

《授業の概要》

「保育実習Ⅰ」（保育所見学観察実習 11月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、「保育実習Ⅰ」のための事前・事後指導を行います。

《テキスト》

開 仁志著（2015）『実習日誌の書き方』一藝社

《参考図書》

久富陽子著（2002）『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』萌文書林

厚生労働所編（2015）『保育所保育指針解説書』

《授業の到達目標》

[事前指導] 保育実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。

《授業時間外学習》

日頃から子ども達の生活や・遊びに興味や関心を持つように心がける。自分の得意なことを見つけておく。実習で役に立つような絵本を図書館で探したり、おもちゃ等を調べて準備しておく。

[事後指導] 実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

《成績評価の方法》

この授業は、実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守ること。最終的な成績は、施設実習に関する「保育実習指導Ⅰ」の評価を加え評価する。レポート等は、コメントを付けて返却する。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず実習事務室へ連絡をすること。講義時は保育所の実習と考え、出席をすること（服装、態度）。講義中に行う実技演習には積極的に行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習課題・配属園の地図	実習課題を清書する。配属園の地図を作成し、保育実習への意欲向上に努める。
2	実習記録について	保育実習記録について、その意義や書き方を再度学び、理解を深める。
3	実習の準備①	健康診断・実習ノート・証明写真について説明を受け、各自がしなければならないことを把握する。
4	実習の準備②	実習園でのオリエンテーションについて（電話のかけ方、オリエンテーション記録）巡回カード記入方法を学ぶ。
5	実習の準備③	細菌検査の重要性を知る。そして保育士の在り方を学ぶ。
6	実習のための事前学習	事前学習（実習でよく使われる漢字・穴埋問題等）を行い、正しい文章表現ができるような力量をつける。
7	実習中の留意事項	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）について再度深く学び、子どもの理解につなげる。
8	指導案について	指導案について内容を理解し、適切に書くトレーニングをする。
9	教育実習指導	予備日とする。
10	教育実習指導	予備日とする。
11	教育実習指導	予備日とする。
12	教育実習指導	予備日とする。
13	教育実習指導	予備日とする。
14	教育実習指導	予備日とする。
15	教育実習指導	予備日とする。

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学 I	科目ナンバリング	C3011SG G034
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学 I では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のみずみについて理解することも目標とする。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
 『やさしく学ぶ保育の心理学 I・II』浜崎隆司ら編 ナカニシヤ出版

《参考図書》

『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観さらには子ども観・保育観を涵養すること。

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
 また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に増やしてください。
 まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価 70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価 30%
 試験終了後解説を行い、学習理解を深める。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学 I」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	さまざまな発達理論	ハヴィガースト、エリクソンなどの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。
5	胎生期の発達の特性と発達上の諸問題	胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。また、大脳生理の基礎的事項、出生前検診の概要を知り、理解を深める。
6	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題①	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
7	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題②	運動面、情動面、言語面などに焦点を当てて、乳児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
8	幼児期前期の発達の特性と発達上の諸問題	自我の芽生え、自己意識の形成などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
9	幼児期後期の発達の特性と発達上の諸問題	認知・思考の発達、社会性の発達などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
10	児童期の発達の特性と発達上の諸問題	児童期の発達に関して、仲間関係、学校生活の問題に焦点を当てて児童期の発達の特性について学ぶ
11	青年期の発達の特性と発達上の諸問題	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて、青年期の発達上の諸問題について学ぶ
12	成人期の発達の特性と発達上の諸問題	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
13	老年期の発達の特性と発達上の諸問題	老年期の発達に関して、定年後の社会や家族との関係に焦点を当てて、心理的諸問題について学ぶ
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	C3012S-0038
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

子どもから大人への過渡期である青年期の心理の特性を、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解するとともに、家庭に潜む心の問題、学校や社会への不適応、就職など社会参加を目前にした情緒不安など、青年期に特有な心理的な諸問題について理解し、青年の自立と成長の支援とは何かについて考える。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・青年期のさまざまな問題行動の背景にある心理を理解できるようになる。
- ・施設保育者として必要な、青年期の人々に特有な心理的な諸問題について理解できる。
- ・青年期の人々の悩みや問題に向き合うことができる
- ・青年期の人々の悩みや問題について、相談に乗ったり解決への支援ができる。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献や新聞などを自ら進んで読み、授業内容について理解を深めてもらいたい。また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に持ってください。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート課題の評価 70%
 授業への取り組みの評価 30%
 レポート課題について全体的な講評を行う。

《備考》

グループで取り組む課題を出すので能動的に学習に取り組むこと。また、グループ内で協働する力を身につけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	授業の進め方の概要。保育者が青年心理学を学ぶ意義について青年期の特徴について 青年期の課題について
2	青年期のとらえ方 青年心理学の研究法	青年期の特徴について理解を深める（生物学的現象 文化的現象 通過儀式） 発達心理学の研究手法について理解を深める（実験法 テスト法 事例研究法）
3	青年期前期の心的特性①	青年期前期の心的特性について理解を深める 自我の覚醒 自我の構造と機能 自己概念の形成 内面化
4	青年期前期の心的特性②	青年期前期の心的特性について理解を深める 不安定性 第二性徴 思春期発育 生活空間 共有世界と個有世界
5	1～4講の学習のまとめ	1～4講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 発達心理学の基礎的事項 自我の発達 青年期の特徴 青年前期の特徴
6	青年期中期の心的特性①	青年期中期の心的特性について理解を深める 自我の高揚 理想主義 価値観 第2の反抗 異議申し立て 英雄的反抗 虚勢的反抗
7	青年期中期の心的特性②	青年期中期の心的特性について理解を深める 形式的操作期 理性と感情 少年の病理 反社会的行動 非社会的行動 向社会的行動
8	青年期後期の心的特性①	青年期後期の心的特性について理解を深める 自我の拡充 現実との妥協 再衛星化 リーウェイ現象
9	青年期後期の心的特性②	青年期後期の心的特性について理解を深める 生活設計の開始 職業観 キャリア意識 キャリア設計 結婚観
10	6～9講の学習のまとめ	6～9講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 自我発達 キャリア形成 青年期の病理
11	青年期後期の心的特性③	青年期後期の心的特性について理解を深める 社会的人格の形成 エリクソンの斬成説
12	青年期後期の心的特性④	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 モラトリアム
13	青年期後期の心的特性⑤	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）に関する心理検査を通して自己分析
14	青年から大人へ	青年期から成人期への移行におけるトピックスについて理解を深める 結婚 家族の形成 社会的責任 人格の変容
15	11～14講の学習のまとめ	11～14講で学レポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 自己分析

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論	科目ナンバリング	C3011SG G042
担当者氏名	三宅 美由紀、春 豊子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を習得する。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養う。

《テキスト》

『保育課程論』
北野 幸子 編著 北大路書房

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省、
『保育所保育指針』 厚生労働省、
『認定こども園教育・保育要領解説』

《授業の到達目標》

- 教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
- 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
- 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめること。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果10%
- (2) レポート課題等の提出物30%
- (3) 筆記テスト60%

《備考》

・幼稚園・保育所・認定こども園などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に意識して収集しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C3012S◆●043
担当者氏名	青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育することの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い保育技術を培う。

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的な事例や演習を通して理解し、説明することができる。
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《成績評価の方法》

筆記試験	40%
課題レポート	40%
受講態度	20%

- ・オフィスアワー等で質問を受け、必要に応じて個別の指導を行う。また、授業の到達目標に対して全体の講評を行う。

《テキスト》

《テキスト》

生活事例から始める『保育内容総論』
神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省
『保育所保育指針』厚生労働省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
内閣府・文部科学省告示第1号・厚生労働省
『保育内容総論』光生館

《授業時間外学習》

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《備考》

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育の基本と保育内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	幼稚園・保育所・認定こども園の比較	幼稚園、保育所、認定こども園の保育内容や管轄、法令等の違いを理解する。
4	子どもの発達と保育①	乳幼児の発達の過程について理解を深める。
5	子どもの発達と保育②	月齢・年齢による子どもの発達の姿を知る。
6	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ。
7	幼児期の遊びと学び	遊びを通して子どもは何を学ぶのかを考察する。
8	子どもの遊びと指導計画①	「発達の壁を乗り越える」4歳児の発達の特徴について学ぶ。
9	子どもの遊びと指導計画②	「育ちあい、学び合う」就学へつないでいく保幼小連携について学ぶ。
10	子どもの生活と保育	保育の1日の流れを理解し、その指導方法や保育の形態を知る。
11	保育内容の変遷	明治から現在に至るまで、それぞれの時代の社会的背景の影響を受けて変化してきた保育内容の歴史の変遷を学ぶ。
12	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育とはについて学ぶ。
13	「命を守る」とは	震災を通して命の大切さを学ぶ。
14	保育の多様な展開	子どもの発達と社会の要求に即した保育の工夫や様々な事情を持つ子どもの保育について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業の振り返り

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C3012S◆●047
担当者氏名	金谷 公子、藤井 恵子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。
 乳幼児は日常生活の中で、人とかかわりを通してどのように言葉を獲得していくのか。その過程を実践事例から見ていき、乳幼児の言葉を育む保育者としての力を養う。
 言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ、その指導方法について事例を通して具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「言葉」のねらいと内容を理解し、言葉の発達について理解する。また乳幼児が言葉を獲得する過程のなかで、一人一人の発達に応じた適切な援助を理解するとともに、言葉による自己表現を豊かにしていくための保育者の役割を理解し実践力を身に付けていく。
- ・言葉の発達に際して特別の配慮を要する子どもへの援助やその保護者への支援のあり方について理解する。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 50%
- 課題への取り組み（創作絵本） 20%
- 授業や演習への参加意欲と態度 30%
- レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

『保育と言葉』 嵯峨野書院 2013

《参考図書》

- 『幼稚園教育要領解説』
- 『保育所保育指針解説書』
- 『演習 保育内容 言葉』 戸田雅美 建帛社 2014
- 『事例で学ぶ保育内容 言葉』 無藤 隆 萌文書林

《授業時間外学習》

- ・子どもとかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。
- ・多くの絵本等に親しみ、絵本のレポーターを増やすとともに自らの言葉を豊かにしていく努力をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように受講マナーを守る。
- ・課題については定められた期間で取り組み提出する。
- ・テキストは資料と並行して活用するため毎回持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション領域「言葉」のねらいと内容	○講義の概要 ○履修上の注意 ○授業の進め方 ○絵本の読み聞かせの意義について理解する。
2	保育の基本と保育内容「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。
3	乳幼児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とかかわりを知る。
4	幼児期の言葉の発達	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びのなかの「言葉」を理解する。
5	自分の考えや思いを伝えるための言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。
6	体験と言葉	乳幼児期の体験が「言葉」に及ぼす影響を知り、自身の乳幼児期を振り返る。
7	保育内容「言葉」の指導計画と評価	「言葉」に関する指導計画を立て、保育をシミュレーションする。
8	保育内容「言葉」と保育実践（1）保育所	保育所における「言葉」の具体例を学び、保育者の援助についても理解を深める。
9	保育内容「言葉」と保育実践（2）幼稚園	幼稚園における「言葉」の具体例から子ども同士の「言葉」のやりとりや保育実践の留意点を学ぶ。
10	発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援	発達障害についての理解を深め、特別支援教育について学ぶ。
11	小学校における「言語活動充実」実践	小学校における言語活動について学び、保育所・幼稚園との連携を考える。
12	これからの幼児教育の課題と保育内容「言葉」	保育環境をとりまく現状と今後の課題について考える。
13	創作絵本発表会（1）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
14	創作絵本発表会（2）	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
15	まとめ	学習内容の再確認と「保育内容言葉」の学びについて具体的に説明することができる。

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C3012S◆-050
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

- 過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。
- 主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。
- 自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10％）と筆記試験（90％）の総合評価。課題は期限内に提出のこと。
 分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。
 提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著（北大路書房 2009）
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

《参考図書》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）、『マインド・ストーム』シモア・ハート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）、『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）、『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）、その他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現や保育実践を見ての感想等）。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	保育方法といっても特定の方法がある訳ではない
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者 援助者 モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる 気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる 共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとチーム保育	レッジョ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション 記録 保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互恵性 継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心 傾聴 受容 ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性 創造の可能性 コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認 事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	C3012S-●051
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加、授業レポート（40%）
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち①	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち②	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは①	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは②	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応①	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応②	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応③	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応④	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応⑤	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア①	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア②	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア③	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育A	科目ナンバリング	C3011S-●052
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

1. 児童の発達について基本的な知識・理論を学ぶ。
2. 乳児保育の実施機関である保育所・乳児院・家庭的保育について知り、その保育内容を学ぶ。
3. 乳児保育の歴史・現状・課題を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・援助活動の基礎となる乳児の発達の道すじを理解する。
- ・保育所・乳児院・家庭的保育の違いから目的や役割を理解する。
- ・乳児保育の歴史を知り、乳児保育が社会の流れと共に変遷していることを理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、作品・レポート（20%）、積極性・集中度・調和（20%）
 ※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

『乳児の生活と保育』ななみ書房 共著
 『保育所保育指針』

《参考図書》

『乳児保育新時代』ひとなる書房 乳児保育研究会編
 『乳児保育I 演習と講義』金子保 クオリティケア
 『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい
 『見直そう子育て 立て直そう生活リズム』エイゼル研究所

《授業時間外学習》

- ・演習課題については必ず作成し提出する。
- ・地域社会や身近な環境において乳児の姿を観察する。
- ・教科書の指定した範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻・欠席・早退は厳重にチェックをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意 乳児の概念（赤ちゃんとの出会い＝ベビー人形）
2	乳児保育の概念	乳児保育とは何か（乳児保育の内容）
3	乳児保育の歴史	保育所と幼稚園 —時代の流れと共に変遷する乳児保育—
4	乳児保育の発達I	0歳児前半期の発達の道すじと特徴 （新生児～6ヶ月まで）
5	乳児保育の発達II	0歳児後半期の発達の道すじと特徴 （6ヶ月～1歳半まで）
6	乳児保育の発達III	1歳児の発達の道すじと特徴
7	乳児保育の発達IV	2歳児の発達の道すじと特徴
8	乳児保育の一体	保育所・乳児院・家庭的保育での一日の過ごし方 （それぞれの施設の違いと役割）
9	乳児への保育者の関わり	0歳児～2歳児における保育者の関わり （発達に応じた援助活動のあり方）
10	基本的な生活習慣獲得と保育	基本的な生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱・衛生）の獲得の道すじ
11	乳児保育と計画I	保育計画の構造と内容
12	乳児保育と計画II	計画立案・実践・評価・反省 記録について
13	乳児の養護環境と乳児保育の課題	家庭の養護環境、家庭への支援活動 地域や関係機関との連携
14	乳児のおもちゃ	乳児用おもちゃの製作
15	学習のまとめ	授業の理解度を測る筆記試験